

6. 立地適正化に関する基本的な方針

1) 目標とする将来都市像及びまちづくり方針

以上を踏まえて、目標とする将来都市像及びまちづくり方針を以下のように定めます。

■立地適正化計画の基本理念

桑名市特有の歴史・文化を受け継ぎ、
今後の人口減少・超高齢社会に対応する
持続可能な安全で快適な都市環境の形成

■将来都市像

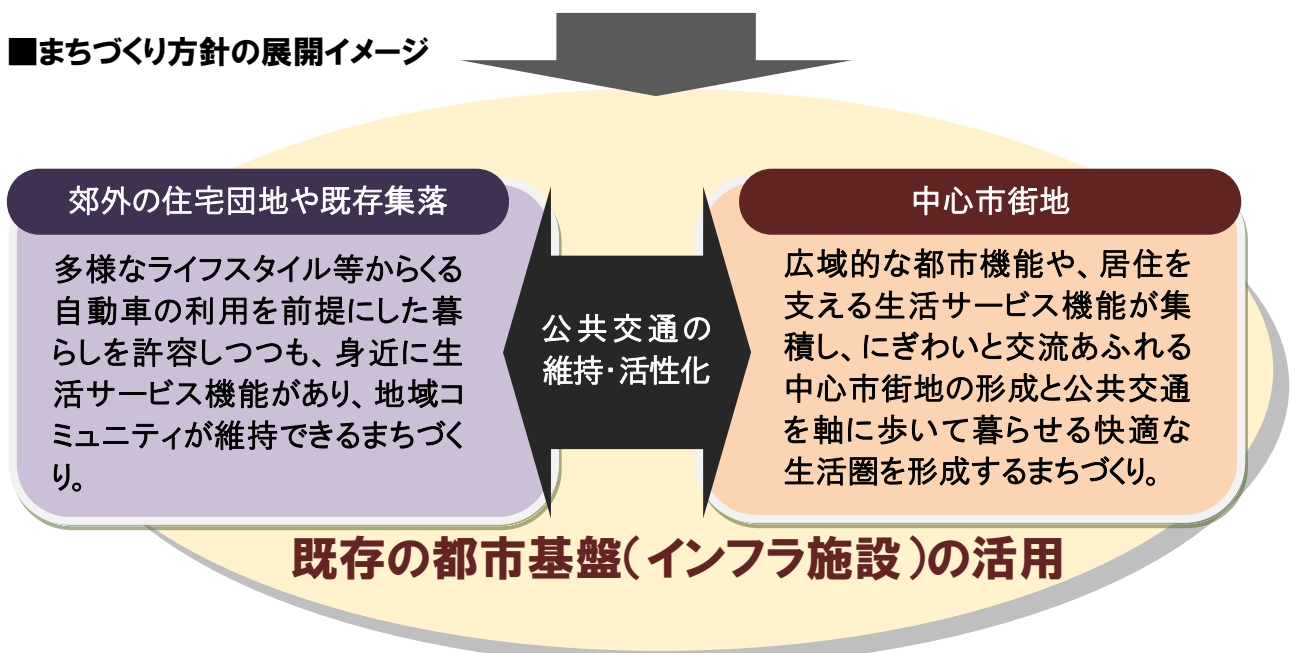
快適な暮らしを次世代にも誇れるまち

■まちづくり方針

基本的な方針(桑名市が目指す都市構造)

- ① 歴史や文化を継承し、桑名駅を中心に交通結節点の機能が強化され、都市機能の集積やまちなか居住により中心市街地が一体となり活性化する都市構造
- ② 鉄道やバス路線などの公共交通が維持され、交流が促進される都市構造
- ③ 歩いて行ける範囲に生活サービス施設(商業施設、医療福祉施設等)が立地し、皆が健康に暮らすことのできる都市構造
- ④ 地域行事への参加や趣味の活動等を通じて地域コミュニティが育まれ、誰もが居場所のある都市構造
- ⑤ 都市基盤や都市機能等の既存ストックが有効に活用される都市構造
- ⑥ 地震、津波、がけ崩れ等の災害から人の命を守ることを最優先とする都市構造

■まちづくり方針の展開イメージ



2) 桑名市の集約型都市構造

桑名市における集約型都市構造の構築の基本的考え方及び集約型都市構造のイメージを以下のように定めます。

集約型都市構造の構築の基本的考え方

地域の日常生活圏域を踏まえた拠点の配置

1市2町が合併した本市は、桑名、多度、長島とそれぞれの地区において異なる日常生活圏域を有している。今後も各地区における地域コミュニティを維持するとともに、自動車を利用しない人も行政施設や医療施設、商業施設などの各種施設に容易にアクセスできるよう、鉄道駅やバス停を中心に生活圏域に応じた3種類の拠点を配置し、各種都市機能の維持・集積を図ることで、拠点周辺の居住地と一体となったコンパクトな都市構造の構築を目指す。

中心拠点	桑名駅周辺を、市内外から人が集まるにぎわいと活力ある拠点として位置づけ、商業・観光、金融・業務、行政、医療・福祉、教育・文化・交流機能等の多様な都市機能の維持と更なる集積を図る。
地域拠点	都市機能の一定の集積が見られる多度駅、長島駅、星川駅周辺を、地域の生活拠点として位置づけ、生活サービス機能の維持を図る。
地域生活拠点	バス運行頻度が最も高く、高速バスによって名古屋市と結ばれる大山田地区、新西方地区を地域生活拠点として位置づけ、地域拠点を補完する生活拠点として、生活サービス機能の維持を図る。

拠点周辺への居住機能の誘導

3種類の拠点に各種都市機能の集積や維持を図るとともに、これら都市機能へのアクセス利便性が高い拠点周辺において居住を促進し、一定の人口密度を維持することで、各種都市機能や生活サービス機能の存続を図る。

公共交通による都市軸の形成

1. 鉄道による都市軸の形成

隣接都市相互や中心拠点と地域拠点を結ぶ鉄道4路線(JR線、近鉄線、養老線、北勢線)を都市軸として位置づける。

2. バスによる都市軸の形成

人口が集積している中心拠点と地域生活拠点を結ぶバス路線を都市軸として位置づける。また、市内各地と拠点や都市軸を結ぶアクセス機能を確保するため、コミュニティバス等によるネットワークの形成を図る。

図 桑名市の集約型都市構造の構築の基本的考え方

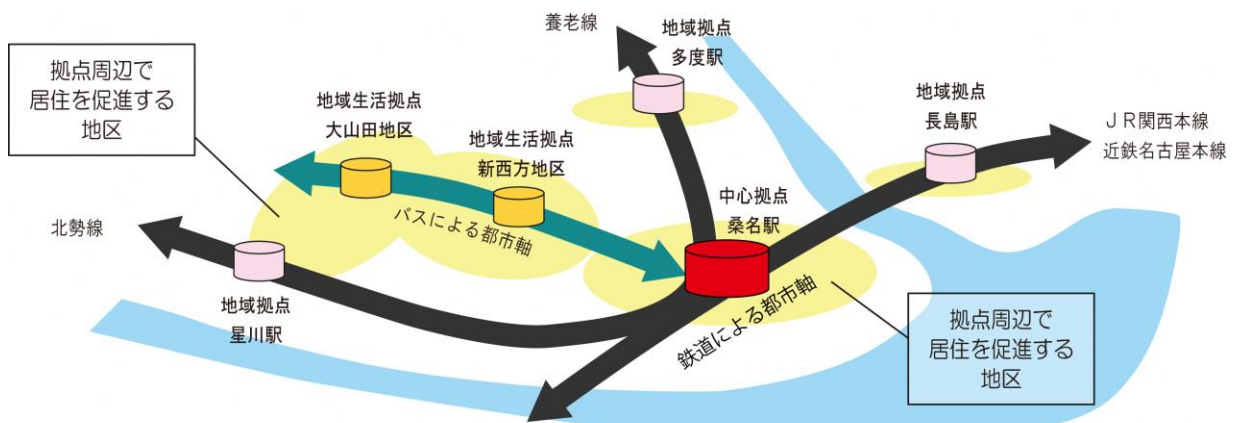


図 桑名市の集約型都市構造イメージ

